

京都 OLC40 周年記念大会兼パークツアー in 関西 2013 京都大会 2013.年 9 月 28 日 京都府南丹市

公認スプリント&日本初のTemp0 & 近畿では久々のナイト。創立 40 周年記念にふさわしいマルチイベント大会を無事開催できました、ご参加、ご支援いただいた皆様方に厚く御礼申し上げます。

2013 年 9 月 28 日 京都府南丹市日吉町  
京都 OLC40 周年記念大会 兼  
パークツアー in 関西 2013 京都大会

### 若手会員の発想で開催決定

本誌 4 月号に掲載いただいた拙文には、1 月に開催予定だった当クラブ 40 周年記念大会 (公認カテゴリ B) の中止のお詫びとその経緯とともに、時期と場所を改めていつか 40 周年記念大会を…と記している。しかし大会中止直後、体力面、財政面で当クラブの消耗は小さくなく、改めて 40 周年大会を開催するにはこれらを回復するための相当の期間が必要な状況であった。それだけに、前回大会の中止から僅か 8 ヶ月、準備期間にすると 4 ヶ月程度で仕切直しを果たし、こうして大会報告を記せることに安堵している。

京都 OLC といえば、アラフィフの筆者が若手の部類に入るほど昨今の高齢社会を体現するクラブであったが、昨年から京大をはじめとする関西の大学 OB や現役学生が相次いで入会し、新たな活気が生まれている。前回大会の中止から僅かな期間で開催決定に踏み切れたのも、彼ら若手会員のバイタリテイと豊かな発想に牽引された結果である。4 月末のクラブ総会、本年度当クラブの受け持ちであるパーク 0 ツアー in 関西京都大会を「府民の森ひよし」で開催すると決まりかけたところ、若手達から「ここでナイト 0 やったら面白い」「Temp0 やってみたい」といった声があがり、あれよあれよという間にスプリント&Temp0&ナイトの 3 本立て大会のアウトラインと、これに 40 周年記念をかぶせてしまおうという方針がまとまった。旧来からの会員だけでこんな発想はおそらく出なかっただろう。

### Temp0?ナイト?試行錯誤の運営

開催は決まったものの、ナイトもTemp0 も当クラブに運営ノウハウはなく、ナイト 0 は 6 月のさくらんぼ大会に参加した数名の経験と、遙か昔にナ

イトを経験したという古会員の記憶が頼り。いろいろ試行錯誤の中、千葉 OLC の石井様よりナイト 0 用フラッグ貸与のご連絡をいただき、大変お世話になった。Temp0 に至っては、それがどんな競技なのかということすら、開催の発案者でありトレイル 0 のトップ選手である伴毅だけしか知らない状況。彼に一任せざるを得なかったが、日本初の Temp0 開催の使命感に燃え、地図作製、コースセット、運営マニュアル作成など全て一人で成し遂げてくれた。

### 京都ツアー2013

ナイト 0 開催のため大会日程を土曜日にせざるを得ず (9 月の 3 連休はいずれも会場側の都合で不可)、集客のため翌日曜日に近隣でどこかの団体の大会開催を期待していたが、京都府協会の定例行事である府民大会を朱雀 OK が京都市内にて開催することとなり (名称は朱雀 OK 将軍塚大会)、当クラブ大会とコラボし「京都オリエンテーリングツアー2013」と銘打ち PR することとなった。種目やクラス分けの違いなどから 2 日間通算成績の表彰等は見送られたが、当クラブ大会 3 種目と朱雀大会の計 4 種目全てに事前申し出された方に特典ありという企画を設けた。

特典は朱雀さんにお任せし、内容は当日まで伏せられていたが、対象者には京都の銘菓「緑寿庵清水のこんべいとう」の小袋が進呈され、大変好評だったそうである。

### 直前の台風襲来にヒヤヒヤ

大会 2 週間前、台風 18 号が襲来。テレビで繰り返し流れた、桂川の氾濫と京都屈指の観光地嵐山が水浸しになる映像は多くの方の記憶に新しいと思う。今大会の開催地「府民の森ひよし」はその桂川の上流、日吉ダムが形成する天若湖のほとりにあるが、その天若湖も溢れ出す寸前であった。このため予定されていた現地作業も中止を余儀なくされ、大会直前の準備スケジュールが極めて厳しくなったのはもちろん、トレインの様相の変容による地図修正、コース変更などの影響も懸念されたが、幸いにしてトレインは何事もなく、無事に大会当日を迎えることができた。

### 延べ 251 名が初秋の丹波を満喫

「府民の森ひよし」での大会開催は、2004 年の当クラブ 30 周年記念大会 (愛知 WOC 協賛大会と称して実施)、2009

年のパーク 0 関西京都大会以来である。スプリントに相応しいコースを組むに適したトレインとは言い難く、かつ 3 度目の大会ということでコースセッターの福田雄希も相当苦心したが、参加者からは概ね良好な評価をいただいた。

3 種目あわせた参加者はのべ 251 名 (組)。公認大会+付随イベントでは、前者がメイン後者はおまけというのが一般的だが、今大会に関しては Temp0、ナイトを楽しみに参加された方々も多く、むしろこちらの方が目玉といってもよかった。トレイル 0 のトップ選手で Temp0 にだけ参加という方も何人もおられた。

### 大会上位成績

【スプリント】(公認対象クラスのみ表記)

MA 2.37km ↑100m 出走 41 名	
1 細川 知希 22 外部 OLC	15:55
WA 1.90km ↑85m 出走 11 名	
1 帯金 未歩 19 阪大 OLC	22:25
M65 1.76km ↑80m 出走 8 名	
1 鹿野 勤次 66 岐阜 OLC	16:32
M50 1.90km ↑85m 出走 9 名	
1 片山 雅之 54 OLP 兵庫	15:42
M35 2.19km ↑90m 出走 8 名	
1 小林 岳人 52 ES 関東 C	19:24
M15 1.34km ↑60m 出走 1 名	
1 福井 陽貴 10 九会小	17:29
W50 1.48km ↑60m 出走 4 名	
1 植松 裕子 63 入間市 OLC	17:13

【Temp0】

Temp0-1 出走 42 名	
1 小泉 辰喜 東京 OL クラブ	128 秒
2 阪本 博 大阪 OLC	158 秒
3 木島 英登	162 秒
Temp0-2 出走 39 名	
1 石黒 文康 紅萌会	117 秒
2 山口 拓也 浜松 OLC	125 秒
3 茅野 耕治 ワンダラーズ	140 秒

【ナイト】

L 2.10km ↑70m 出走 40 名	
1 石黒 文康 紅萌会	14:53
M 1.60km ↑40m 出走 7 名	
1 村橋 和彦 KOLA	21:49
S 1.10km ↑10m 出走 18 名	
1 土屋 武 愛知 OLC	11:33

以下、今大会の目玉であり、大会としては日本初の開催である Temp0 およびナイト 0 について、両種目のコースランナーを務めた伴より詳細な報告させていただく。

(以上 京都 OLC 小野田 敦)

## 日本初の TempO 競技

スプリントの競技後は、日本で初となる TempO 競技が開催された。TempO 競技はトレイル 0 のタイムコントロールに似た競技であり、椅子に座って複数のフラッグの中から正解のフラッグを選び出す。ただし、正解数は直接成績には関係なく、回答までに要した時間で成績をつける。とはいうものの、誤回答にはペナルティーとして 30 秒が追加されるので、正解することも重要であり、早い判断とその正確さのバランスが要求される競技である。

今回のコースは 3 か所のステーション（フラッグ群）で構成され、1 つのステーションでは 3~4 つのコントロールを連続して解く。合計では 10 問のコントロールが用意された。参加者は当日参加者を含めて約 80 人にのぼり、TempO 競技のみに参加する参加者もいたり、日本初開催ながら参加者のモチベーションの高さを伺わせた。

コースは初心者から日本代表まで幅広い参加者に対応するため、競技が進むにつれ難易度が高くなるように設定された。それでも上位陣は 10 問中 3 ミス程度、1 問平均 10 秒程度で回答していた。普段トレイル 0 に慣れない参加者もフット 0 の技術を応用し、tempO に適応していたようである。一方で、細かい地図読みや正解なし(Z)の存在に対して最後まで適応に苦しんだ参加者も散見された。今回の経験を次回以降に生かして、TempO に挑戦に欲しいと思う。

## TempO の未来に向けて

今回運営して感じたのは、TempO の最大の魅力であるスピード感と、それを楽しむ参加者の姿である。TempO 競技では、競技の本質である回答の時間は数十秒単位であるし、移動の時間を含めても 15 分程度でゴールできる。一瞬にかける集中力とスリル、という面では種々のオリエンテーリング競技の内でもトップクラスである。

今回の大会では、従来のトレイル 0 競技層の他にも、若い学生の競技層からも好評を得た。今回実施する競技として従来のトレイル 0 ではなく TempO を選んだのも、参加者の大半を占める若い競技者たちにとってスリルのある TempO の方が好まれるであろうと考えたからである。

北欧諸国と比較して圧倒的に不足している TempO の競技機会を求めるトレイル 0 競技者、またはオリエンテーリングに新たな刺激と挑戦を求める若い競技者と、TempO には需要がある。問題はそれをどう供給するかだ。



TempO のステーション 2 の様子。フラッグは 6 つ、左から A,B,F で、正解なし(Z)の可能性もある。

TempO 運営における最大の課題は運営者の人数である。各ステーションには常に役員が配置されている必要があり、今回のような小規模の大会でさえ 10 人以上の役員が常に運営にあたっていなければならない。省力運営が主流となっている昨今においては運営者の数の問題は大きい。実際に、今回の運営役員からも「TempO は事前準備は楽だが、当日の役員を考えるとコストパフォーマンスは良くない」との声も聞かれた。

今後、電子パンチングシステムの開発などで TempO にも省力運営が可能なノウハウを生み出す必要があると考えられる。

## オープンを駆けるナイト O

TempO の終了後は、ナイト O が開催された。今回のトレインである「府民の森ひよし」はその大半をオープンが占めるトレインであり、私は 1 回目の下見の時からぜひナイト O を開きたいと考えていた。

今回のコースはその特徴を存分に生かし、広大なオープンを通るレグが多く設定された。その一方で上級クラスには不整地のコントロールやスプリントらしい細かなナビゲーションを要求するレグも含まれ、距離は短いながら内容の濃いものとなった。



ナイト O のコースの一部。広大なオープンを闇夜の中、直進してポストを目指す。

さらに、煩雑なコース回しを見やすくするために縮尺を 1:2500 に拡大した地図が用いられた。フラッグは千葉 OLC 様より、ライトの光に反射するナイト O 専用の機材を貸与いただいた。

競技者は、機会が少ないナイト O 競技を存分に楽しんだようである。また、トップ選手は 2.1 キロのコースを 15 分程で走り切るなど、夜の視界の悪さを物ともせずに競技していたようである。

「府民の森ひよし」は山林部分は分断されている上に急斜面またはヤブの部分が多く、やや使いにくい印象も受けるが、ナイト O には理想的であることも確認された。今後も機会があればこの地でナイト O を開きたいと思う。

## 対照的な再挑戦を終えて

大きな期待を背負いつつも中止となった長岡京の大会は本格的な公認ミドルの大会であった。一方で、今回はレクリエーション的な楽しさを追求した大会となった。

今、京都 OLC はベテランと若手の融合により大きな力を秘めたクラブとなりつつある。そして、競技者の需要やトレインの特性に適応し、変幻自在の運営で参加者を楽しませられるクラブとしてさらに成長していきたいと考えている。

(以上 京都 OLC 伴 毅)